

ワークショップ(第9回)概要

○日時 2024年5月28日(火) 13時15分から15時45分

○場所 乃村工芸社 会議室(一部オンライン参加)

○議題 ・みんなトイレのサインと並び方

- ・「リボン体験」の概要説明と実物大モックアップによる確認
- ・今後の予定

○出席者

エキスパート	石塚裕子			
お困りごと当事者 18人	車いす使用者	5人	発達障がい者(親と参加)	0人
	視覚障がい者	3人	発達障がい者の親	1人
	聴覚障がい者	2人	LGBTQ+	2人
	精神障がい者	1人	医療的ケア児(親と参加)	1人
	知的障がい者(親と参加)	1人	子育て世帯	1人
	知的障がい者の親	1人		
作り手企業	TOTO 株式会社			
業務受託者	株式会社東畑建築事務所 株式会社乃村工芸社・三菱UFJリサーチ&コンサルティング共同企業体			
傍聴	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課			

○配慮事項

資料のワードテキスト文書(事前送付)、単独来場の視覚障がい者を駅から誘導、立体コピー、手話通訳、UDトーク

○議事要旨

● みんなトイレのサインと並び方

2024年2月29日(第8回)での検証を踏まえ、通路幅の拡幅及びファミリーコーナー入口の位置変更することを報告した。また、みんなトイレの入口手前にコンセプトボードを設置することを報告した。コンセプトボードの記載内容には、外見からはお困りごとがわかりにくい人やどのようなことに困っているのかといった具体事例を記載すべきと意見があった。入口に設置するトイレサインは人型の男女共用トイレのピクトをベースとすることとした。意見を踏まえ引き続き検討することとした。

● 「リボン体験」の概要説明と実物大モックアップによる確認

以前の説明から時間が経過していたことから、あらためて展示内容の説明した後、展示物の実物大モックアップにより使いやすさ等を確認し意見交換を行った。カラダ測定ポッドについては、カメラやモニター位置、出入りのしやすさ、同伴者との入室といった意見があった。ミライのライドについては、乗車人数、映像や字幕の位置、サインについては、文字の読みやすさやルビを振ること等の意見があった。意見を踏まえ引き続き検討することとした。

● 今後の予定

次回は、9月をめどに、展示及び運営・広報を議題として開催することを確認した。

大阪ヘルスケアパビリオン

UD推進チーム ワークシヨップ (第9回)

令和6年(2024年)5月28日
13時15分～15時45分

乃村工藝社 会議室
パークスタワー20階

13:15 ご挨拶

13:20 「みんなトイレのサインと並び方」～2月29日ワークショップを踏まえて～

説明15分・各班ディスカッション15分

13:50 「REBORN体験ルート」の展示体験の概要 説明15分

14:05 原寸大モックアップによる展示体験確認 (4班で順番に確認)

- ① PHRポッド：モニター
- ② PHRポッド：造作
- ③ リフトライド
- ④ 協賛企業展示のブースサイン

14:30 各班ディスカッションとまとめ 適宜休憩

15:00 発表 (5分/チーム)

15:30 講評

15:35 今後の予定など

15:45 終了

1. みんなトイレのサイン・並び方

～2月29日のワークショップを踏まえて～

- ・日時：令和6年(2024年)2月29日(木) 14:00～
- ・場所：大阪府咲洲庁舎 44階会議室
- ・参加メンバー：石塚先生

当事者のみなさん 18名

大阪パビリオン関係者 (公社)大阪パビリオン、東畑建築事務所、博覧会協会
作りて企業のみなさま シブタニ TOTO

・ワークショップの内容

いろんな機能のトイレがどこにあるか、どこが空いているか、どうすれば利用したいトイレにスムーズにたどり着けるか、などを3班に分かれてディスカッションしました。
また、床に実物大のレイアウトを表示して、並び方や通路幅などをみんなで検証しました。



みんなでディスカッション



並び方などを確認



車いす同士がすれ違えるか確認

みんなトイレ 実物大レイアウトの確認でわかったこと（動線）

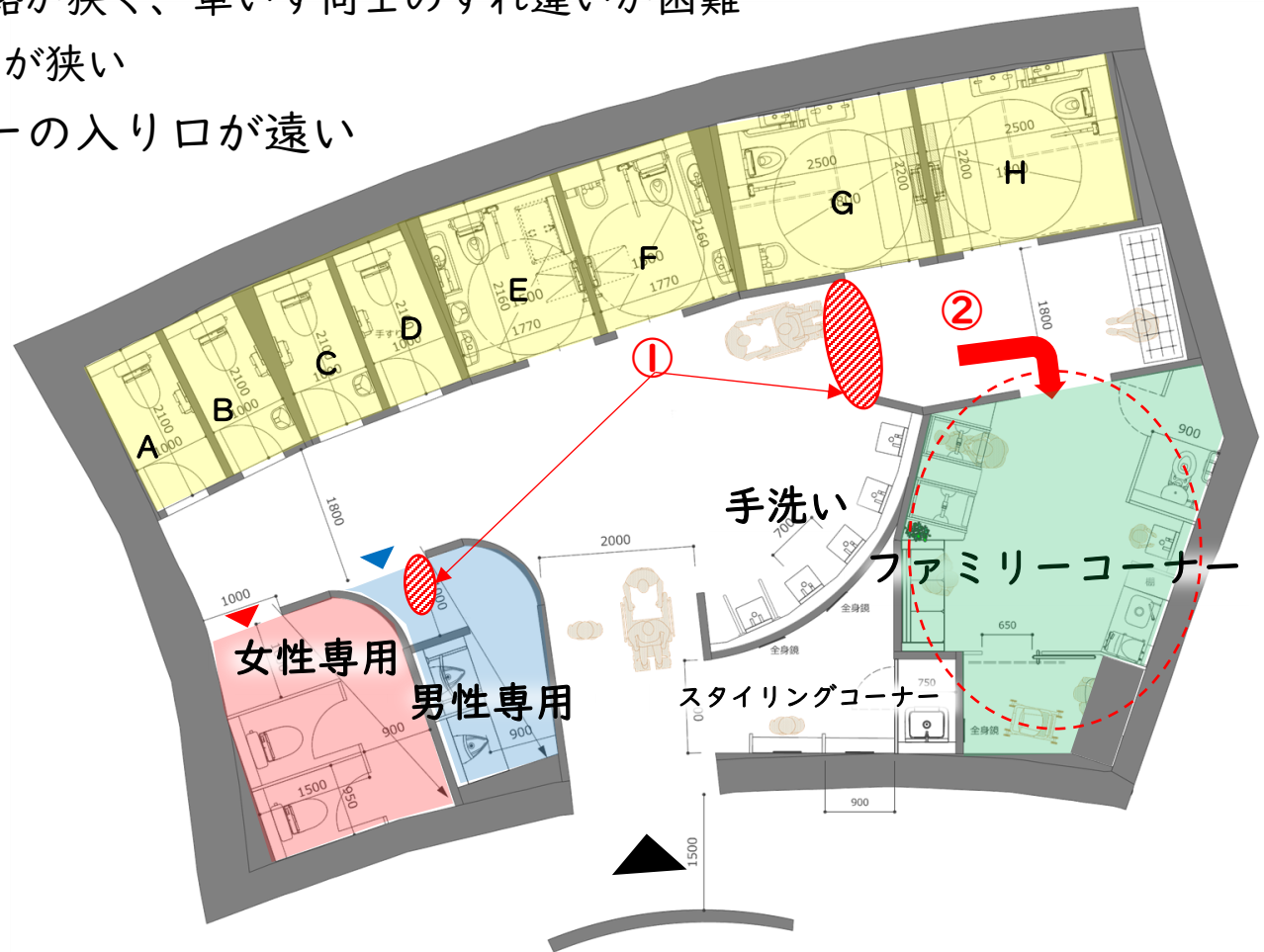
並び方や通路・出入口の幅を確認しました。

わかった課題

①幅の狭い所がある

- ・ G・Hブース前の通路が狭く、車いす同士のすれ違いが困難
- ・ 男性専用の入口の幅が狭い

②ファミリーコーナーの入り口が遠い



みんなトイレ 実物大レイアウトの確認でわかったこと対応 (動線)

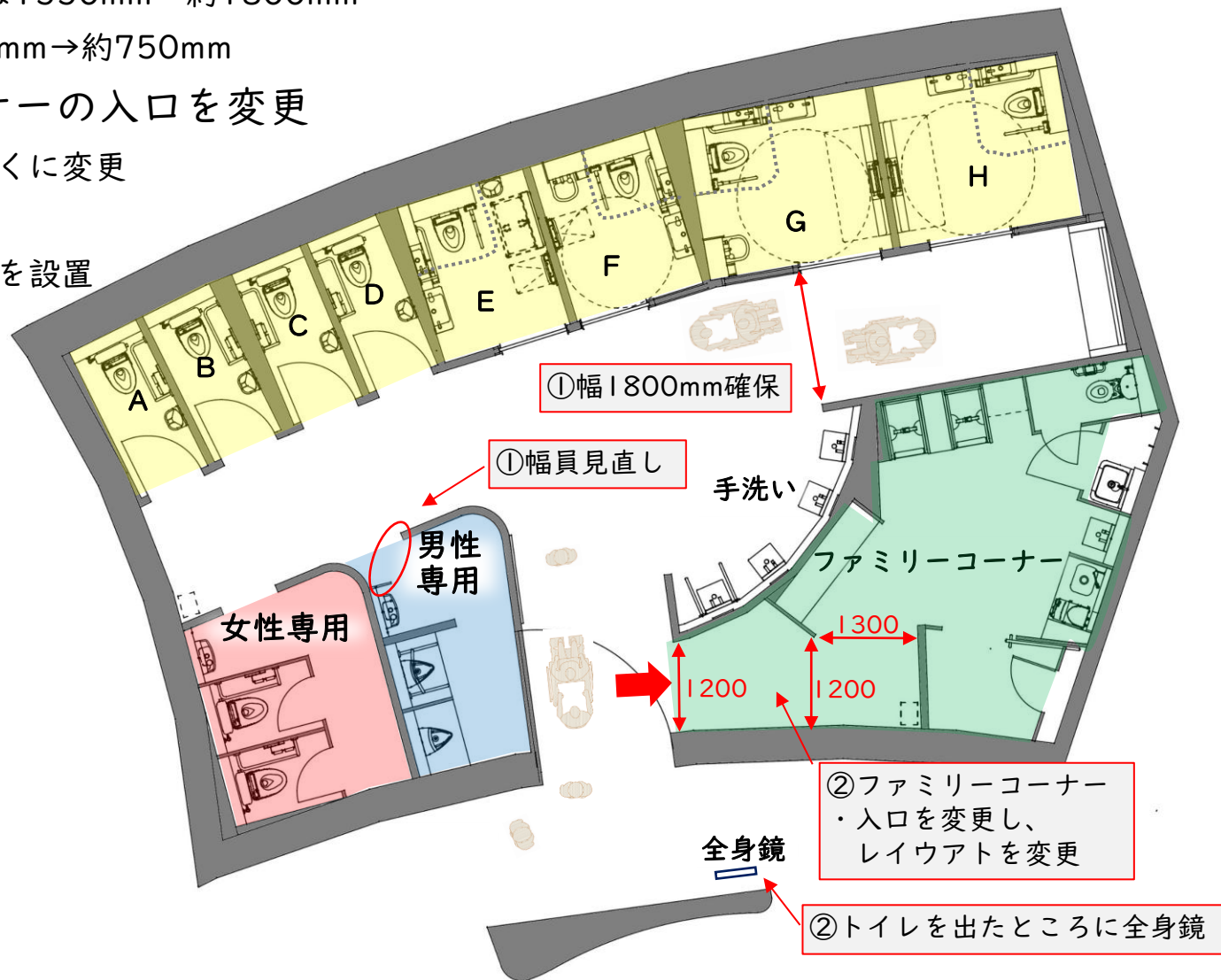
わかった課題は、次のように対応します

①狭かった通路幅を拡幅

- ・ G・Hブース前の通路は1550mm→約1800mm
- ・ 男性専用入口幅は560mm→約750mm

②ファミリーコーナーの入口を変更

- ・ 入口をトイレ出入口近くに変更
- ・ レイアウトを見直し
- ・ トイレ出た所に全身鏡を設置



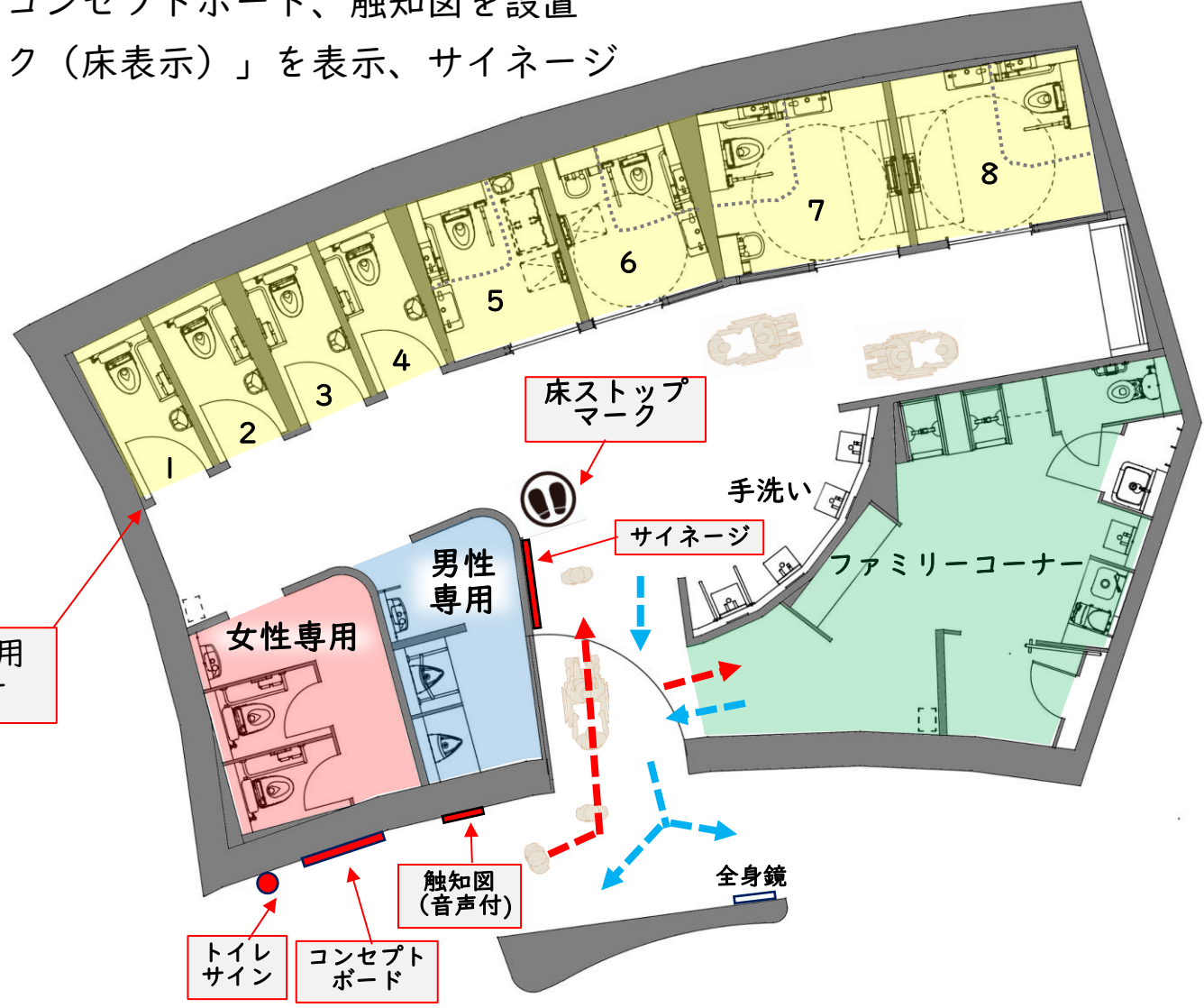
みんなトイレ わかりやすい並び方

自然と並び列ができるよう、ゆるやかに誘導

- ・ 入口左側にトイレサイン、コンセプトボード、触知図を設置
- ・ 列の先頭に「ストップマーク（床表示）」を表示、サイネージは列の先頭に設置

- トイレの使用前に、コンセプトをしっかりとアピール！
- ➡ 自然と譲り合いの気持ちが生まれることを期待♪
- 並び列の先頭で、空いたブースが使いたいブースではなかった時は
- ➡ 後ろの人や困っている人に声かけの輪

1～4の扉は未使用時は開いています



みんなトイレ わかりやすい案内（イメージ）

トイレサイン、コンセプトボード、触知図のイメージ

- ・トイレサインは名称とピクトを表示
- ・コンセプトボードはUD推進チームの取り組みなどを記載
- ・触地図は平面図と凡例、点字を表示し、音声でも案内
- ・日英表記

確認事項

- ① トイレサインのピクトの種類
- ② コンセプトボードの記載情報

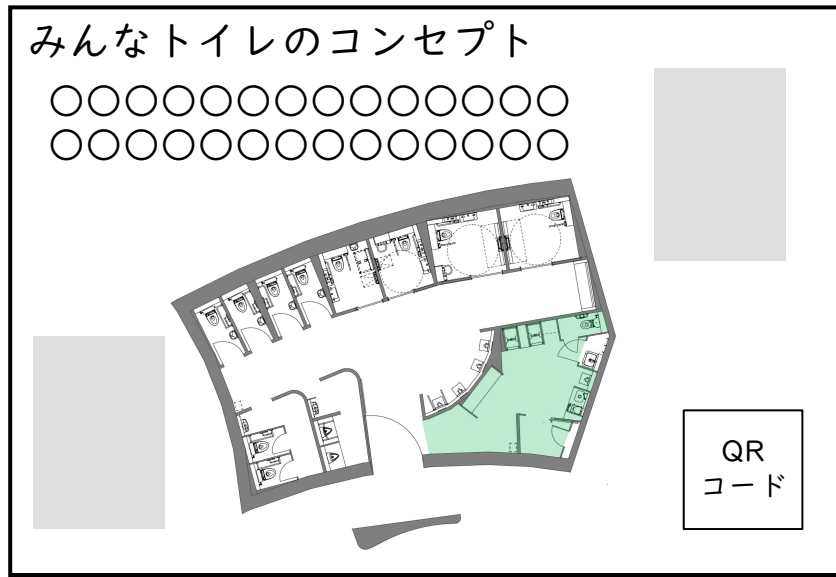
トイレサイン



男女共用トイレ
(JIS規格)

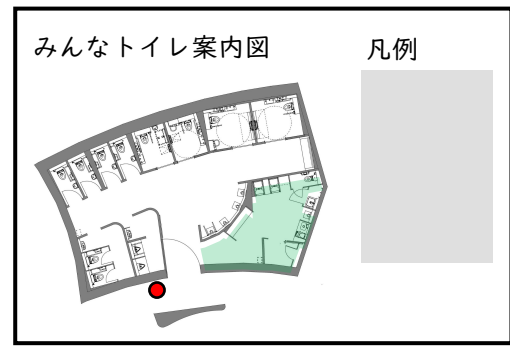
洋風便器
(JIS規格)

コンセプトボード 1500mm×900mm程度



- 表示内容**
- ・コンセプト
 - ・平面図（各トイレの機能も表示）
 - ・作りて企業名
 - ・QRコード
 - ➡ ホームページにも、コンセプトが分かる動画・音声情報、トイレのことばの地図などを掲載することを検討

触知図 300mm×400mm程度



- 表示内容**
- ・現在地
 - ・図面（触知図形、点字）
 - ・凡例（触知記号、点字）
- 音声情報**
- ・現在地
 - ・トイレのレイアウト（共用トイレ、ファミリールームなどの位置）
- ※ 音声をどのように流すことができるのかは確認中

みんなトイレ 機能がわかるピクトサイン

機能などがわかるピクトサインを設置します

- ・各ブースの機能、ファミリーコーナーの機能、男性専用トイレ、女性専用トイレのピクトを設置
- ・男性用トイレ、女性用トイレのサインは突き出しサイン（壁に対して直角に設置）とします

ピクト設置か所：●

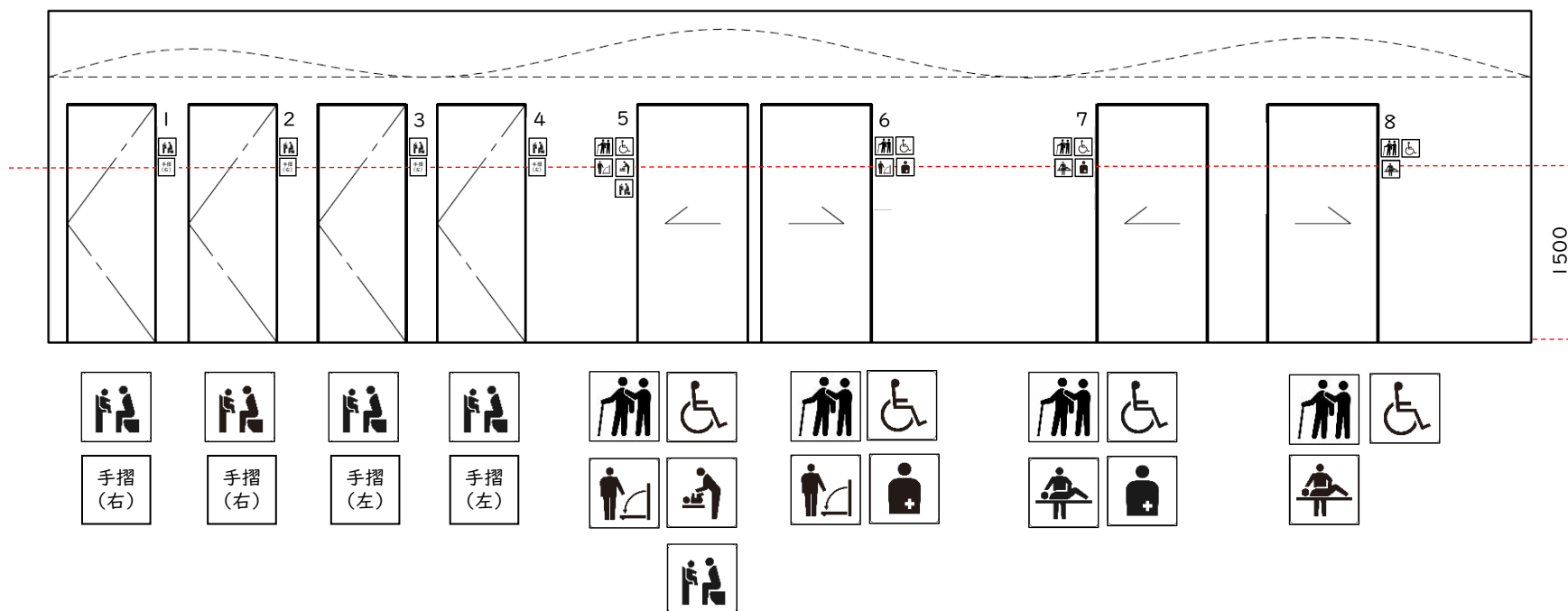
※：デザイン検討中



みんなトイレ ピクトサインの設置位置 (トイレブース1~8)

各ブースの扉横にピクトサインを表示します

- ブース番号を扉横に表示
- ピクトのサイズは全て150mm角、設置高さは床から1500mmを基本
 - ・ 博覧会協会「サイン整備指針」のピクトサインを使用
 - ・ 共用トイレマーク (男女マーク) は表示しない



設置するピクト (予定)

★JIS規格外



車いす
トイレ



オストメイト



介助用
ベッド



着替え台



おむつ
交換台



ベビーチェア



★手摺位置



授乳室
(女性用)



こども
トイレ



男性用
トイレ

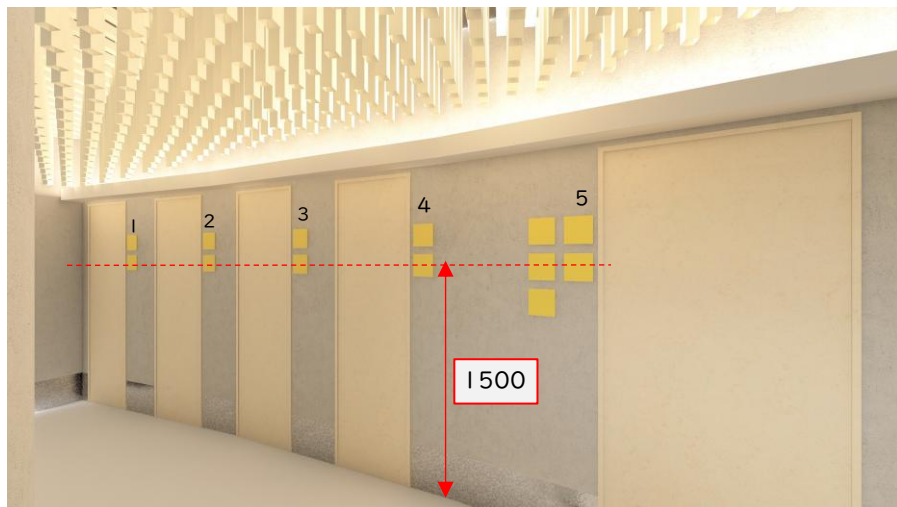


女性用
トイレ



★介助

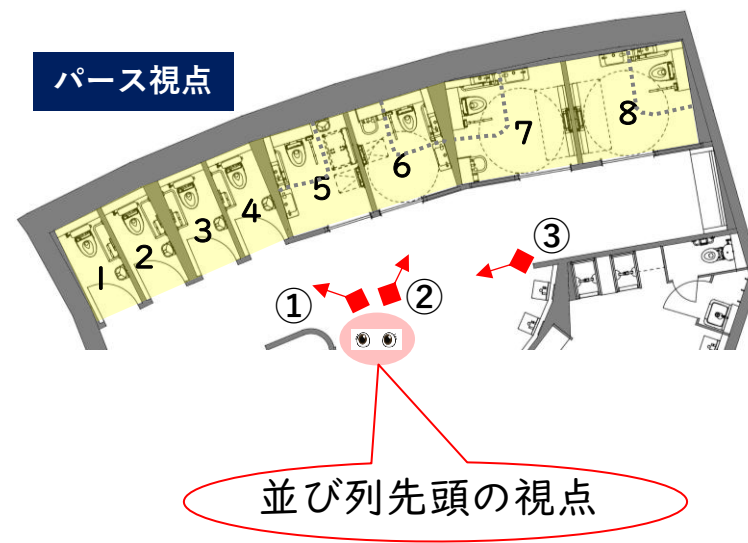
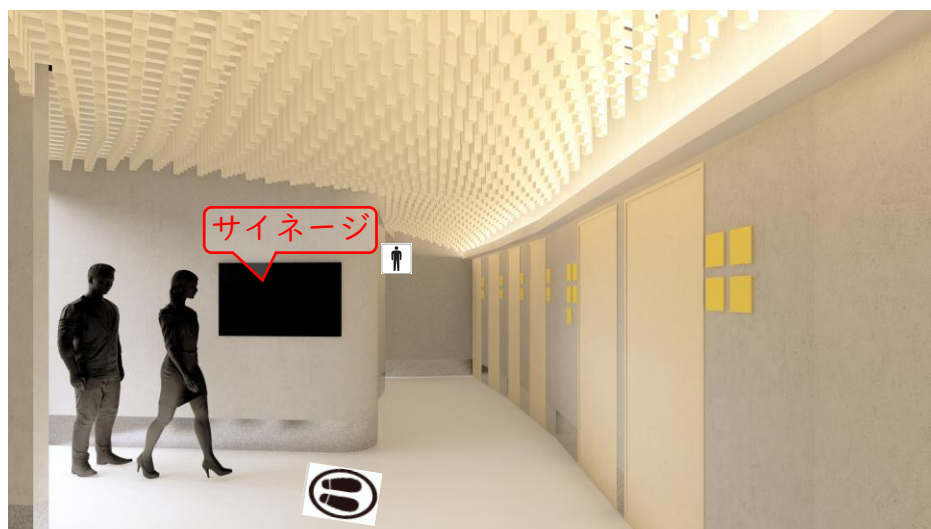
パース (視点①)



パース (視点②)



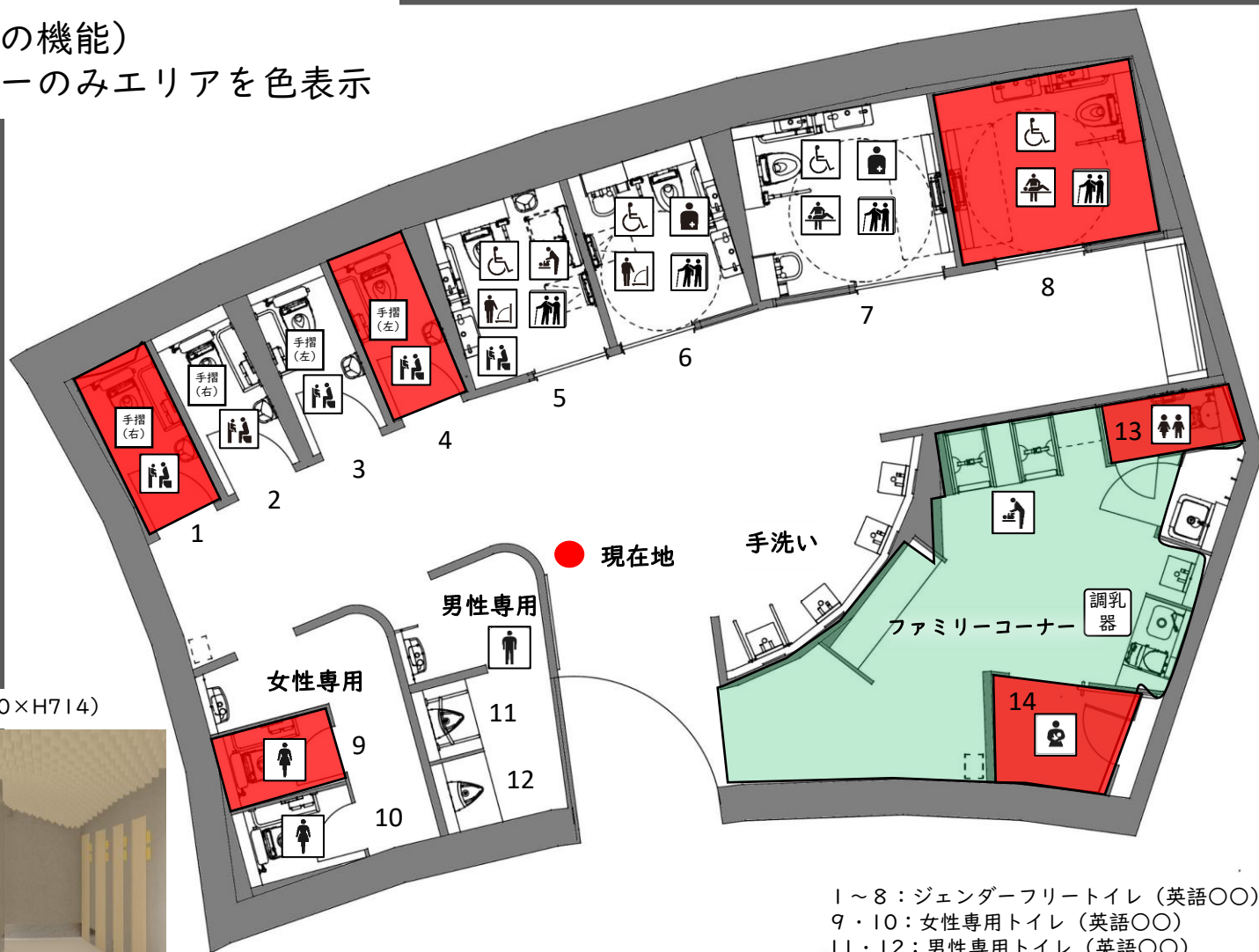
パース (視点③)



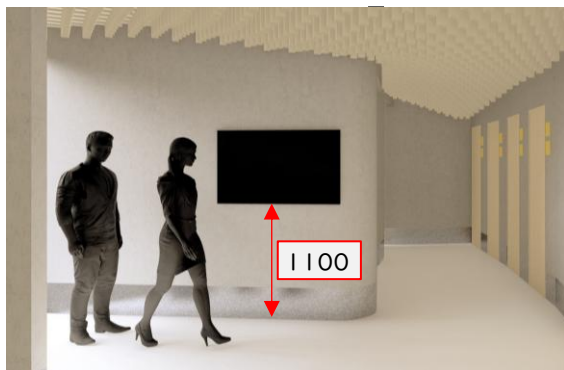
みんなトイレ サイネージの表示内容 (イメージ)

- ・使用中のみ「赤■」で表示
- ・ブース番号
- ・ピクト (各トイレの機能)
- ・ファミリーコーナーのみエリアを色表示

サイネージ



◆サイネージ 50インチ (W1240×H714)



- 1～8：ジェンダーフリートイレ (英語〇〇)
- 9・10：女性専用トイレ (英語〇〇)
- 11・12：男性専用トイレ (英語〇〇)
- 13：こどもトイレ (英語〇〇)
- 14：授乳室 (英語〇〇)

- ◆ピクト
- ・共用トイレマーク（男女マーク）はいらない
 - ・男女マークの色分けはいらない
 - ・トイレマークは男女マークではなく、便器マークがいい
 - ・ピクトの大きさは、種類で変えずに同じ大きさがいい

- ◆事前情報など
- ・ことばの地図（トイレの動線）があるといい
 - ・大阪パビリオンのHPに「みんなトイレ」の特集があるといい

- ◆通路
- ・通路幅が狭い、可能であれば1800mm確保を
 - ・G・Hトイレ前の通路が混雑しそう

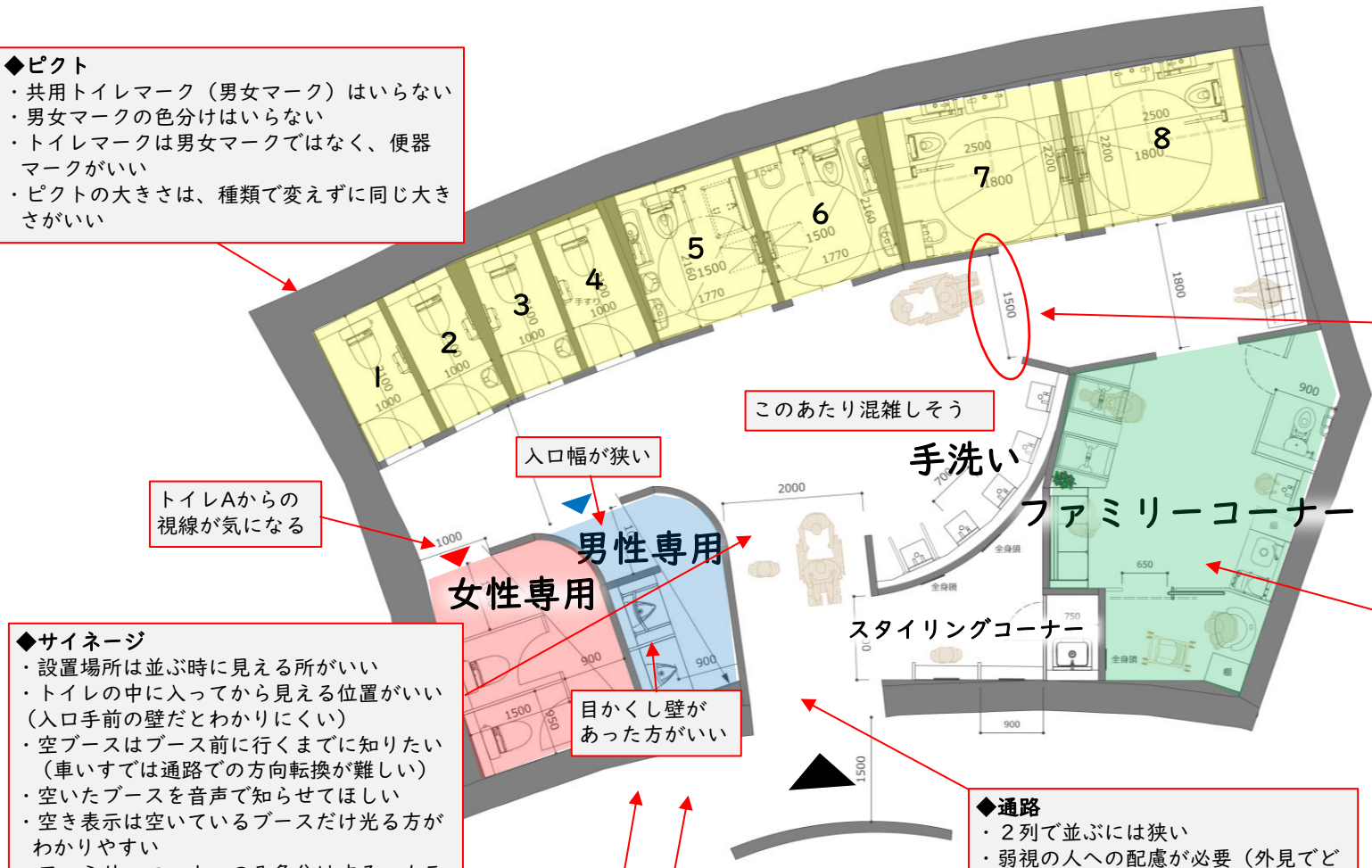
- ◆ファミリーコーナー
- ・入口までの動線が長い
 - ・キッズトイレまで遠いので、ベンチ裏の壁に開口を設けるなどショートカット動線がほしい
 - ・ファミリーコーナーに2か所出入口があるのは不安、原案の方が安心感がある
 - ・ファミリーコーナー内にベンチは必要、外のベンチで授乳は不安

- ◆サイネージ
- ・設置場所は並ぶ時に見える所がいい
 - ・トイレの中に入ってから見える位置がいい（入口手前の壁だとわかりにくい）
 - ・空ブースはブース前に行くまでに知りたい（車いすでは通路での方向転換が難しい）
 - ・空いたブースを音声で知らせてほしい
 - ・空き表示は空いているブースだけ光る方がわかりやすい
 - ・ファミリーコーナーのみ色分けする。カラフルだとわかりにくい。

- ◆並び列
- ・列の先頭と2番目の人はトイレの中で並び、3番目からは入口左側に1列で並び
 - ・動線は一方通行にした方がわかりやすい
 - ・入口左側に並び、出口は固定しない方がわかりやすい
 - ・混んでいる時には、E～Hが空いた時に使っていいか悩む

- ◆コンセプト
- ・目かくし壁または左側の壁にコンセプトを示す
 - ・トイレを使用する前にコンセプトをしっかりアピール
 - ・いろんな人がいろんなトイレを使うことを知ってもらえれば、列に並んでいても自然と譲り合いの気持ちが生まれるのでは
 - ・このトイレを使って意識を変えるきっかけになるといい

- ◆通路
- ・2列で並ぶには狭い
 - ・弱視の人への配慮が必要（外見でどんな困りごとがあるかわかりにくいので声をかけてもらいにくい）



2. 「REBORN体験ルート」の 展示体験の概要

3. 原寸大モックアップによる 展示体験の確認

参加メンバー・班分け

■ワークショップ班構成と役割

	ファシリテーター	リーダー					
A班	事務局	車いす使用者(欠席)	LGBTQ+	視覚障がい者	知的障がい者・親	子育て世帯(支援)	書記：事務局
B班	事務局	車いす使用者	LGBTQ+	聴覚障がい者	発達障がい者・親(欠席)	知的障がい者の親(オンライン)	書記：事務局 UDトーク：事務局
C班	受託事業者	車いす使用者	視覚障がい者	医療的ケア児・親	精神障がい者	車いす使用者	書記：事務局
D班	受託事業者	発達障がい者の親	車いす使用者(オンライン)	視覚障がい者	聴覚障がい者		書記：事務局

当日対応：事務局

■パビリオン関係者

エキスパート

事務局（公益社団法人大阪パビリオン） 展示2名、建築3名、広報2名、運営・催事5名

受託事業者：乃村工藝社 11名、Whatever 4名、BIPROGY 1名、三精テクノロジーズ 2名、AVI 3名

：東畑建築事務所 1名

作り手企業：TOTO 2名

■オブザーバー

博覧会協会、大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課

確認の流れとチェックポイント

原寸大モックアップにより、広さモニターの高さなどを確認します

順番

A班	④→③→①→②
B班	③→④→②→①
C班	②→①→③→④
D班	①→②→④→③

チェックポイント

①.PHRポッド：モニタ

- 見やすさ (誘目性・視認性)
- 読みやすさ (可読性・明視性)
- ※文字サイズ・色

②.PHRポッド：造作

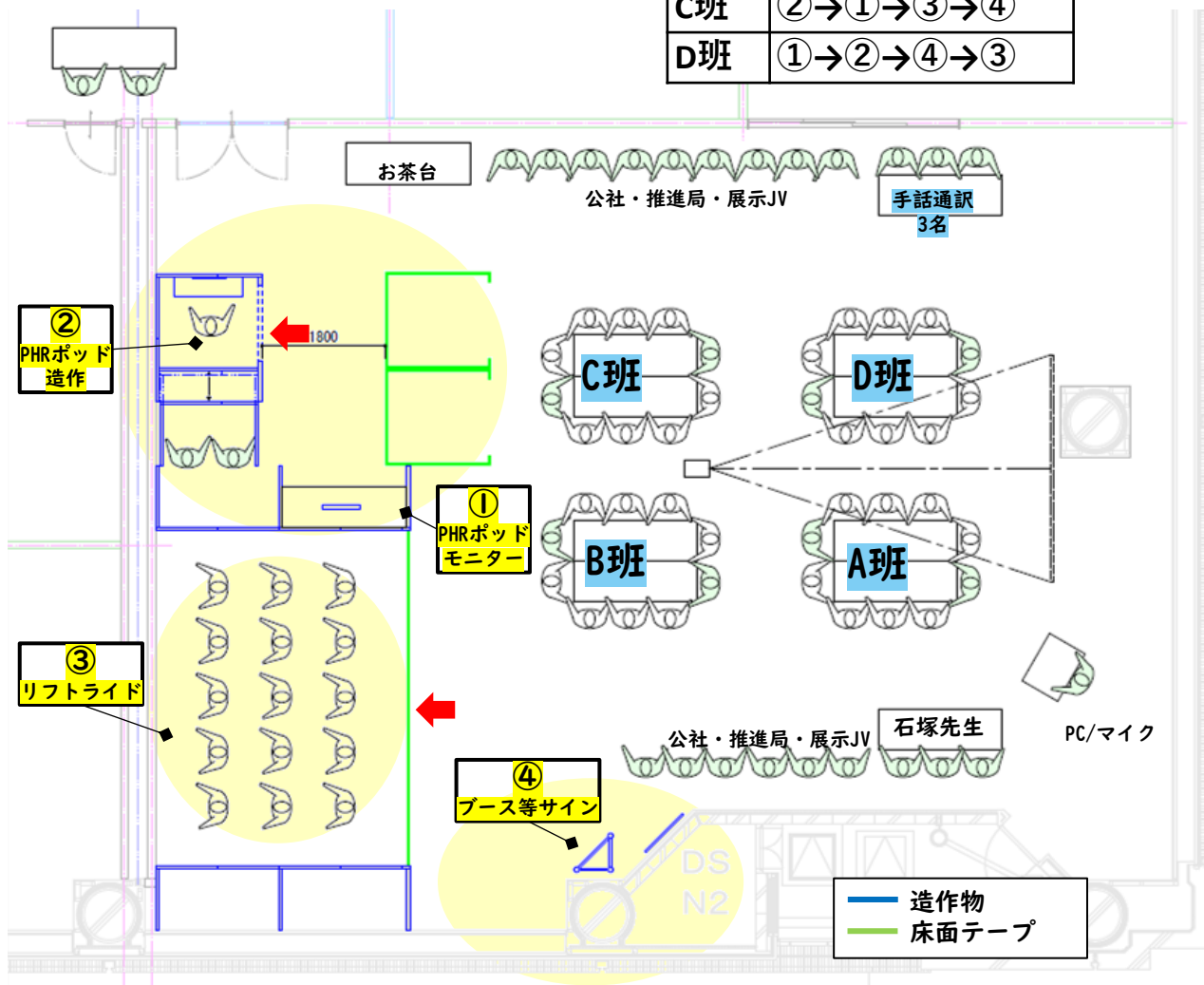
- 入室・退室
- 白杖置き方
- IDリーダータッチ場所・高さ
- 台・モニターの高さ
- (バギータイプ)

③.リフトライド

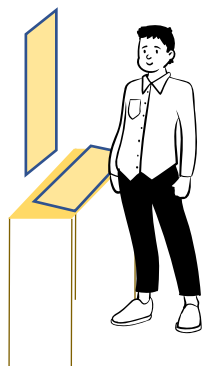
- 入退室
- モニターの高さ
- 適正人数
- 運営方法

④.ブース等サイン

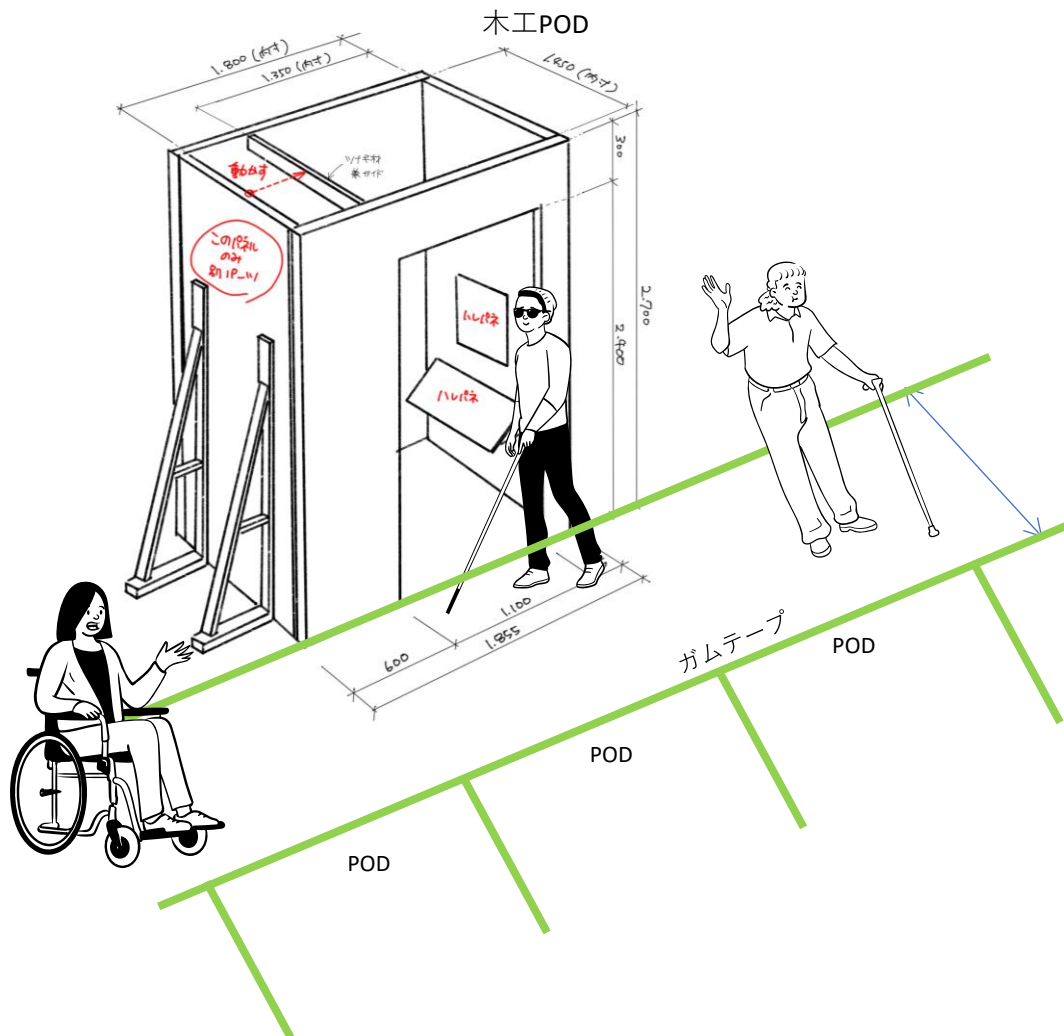
- 見やすさ (誘目性・視認性)
- 読みやすさ (可読性・明視性)



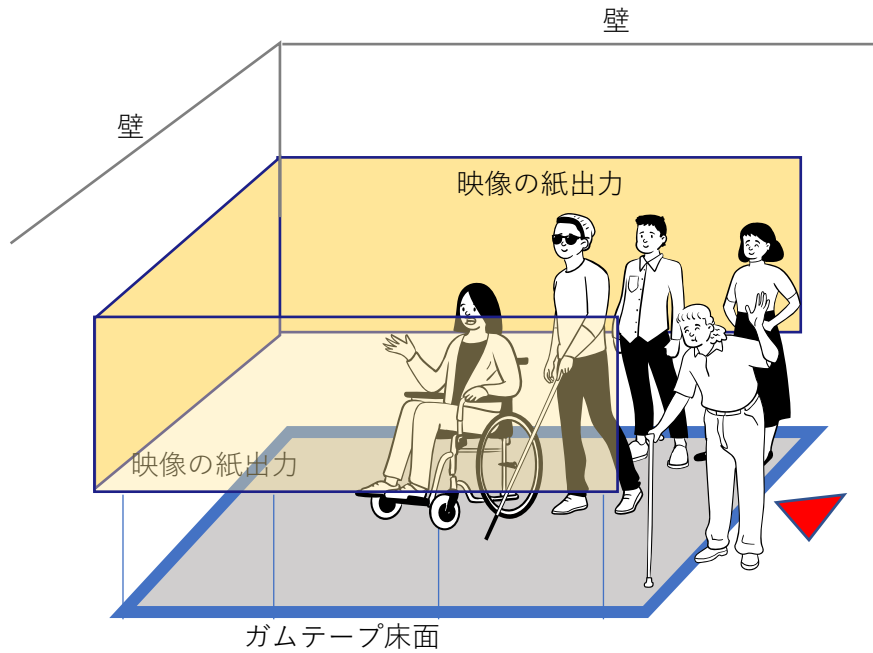
① モニター (PHRポッド)



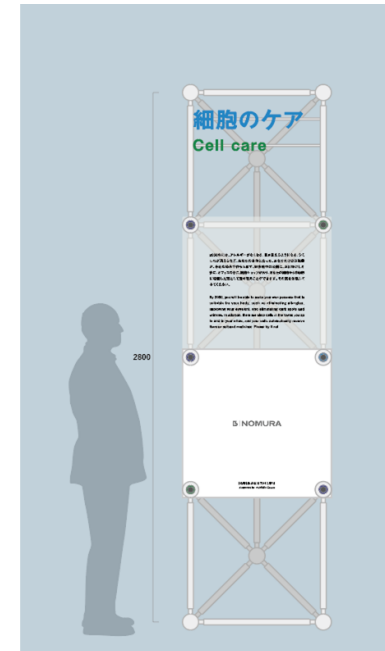
② PHRポッド 木工



③ リフトライド 木工



④ ブース等サイン モック



ディスカッション・まとめ
→発表（各班5分）

講評

今後の予定

大阪ヘルスケアパビリオン

UD推進チーム ワークショップ

(第9回)

意見まとめ(トイレ)

トイレ意見とりまとめ

【みんなトイレのピクトサイン】

◆ 男女共用マークを表示

- ・男女共用マークがよい

(外見から障がいがあることがわかりにくい人やLGBTQの方も参画して決まったマーク)

※参考：公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団資料 [男女共用お手洗 Allgender toilet について \(ecomor.or.jp\)](#)

- ・このマークで男女共用ということをはっきり明示した方がよい
- ・万博なので世界の人にもこのマークの意味を理解してもらえるようにしてほしい
- ・人のマークがある方がトイレと気づきやすい
- ・世界基準で認識が合うピクトの方がよい(人型ピクトの方がいいのでは)
- ・洋風便器のマークだとわかりにくい人もいる

◆ 男女共用マーク以外を表示

- ・男女マークは性別が2つ、みんなを表していない。
- ・真ん中に男性でも女性でもない人がもう1人いるようなマークの方がいいのでは
- ・車いすのマークがないのも気になる
- ・誰でも使えることがわかるマークや表示が必要

◆ その他

- ・誰でも使えることが分かる表示が必要
- ・多くの人、世界の人にも理解してもらえるマーク
- ・色は白黒の表現がいい
- ・マークにこだわらず手触りやいろんな色でわかる看板のようなものもいいかも


最終決定

名称：
男女共用お手洗 All gender toilet

図材：
立位の女性と男性 中仕切なし

機能：
性別に関係なく利用できる、または介助者と共に利用できるトイレースを表示

補助表示：
文字による補助表示を付ける場合は「男女共用All gender」またはそのどちらかとする
色彩はモノトーンが望ましい

図記号：


【参考】JIS Z 8210 案内用図記号

第2回 JIS Z 8210 案内用図記号の変遷 | 日本規格協会 JSA Group Webdesk

2020年の追補3で新しく追加された図記号



1. 2020東京オリンピック・パラリンピックへの対応

2017年の改正は、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、国際整合性の確保のために6項目の図材を変更するとともに、2015年より公益財団法人エコロジー・モビリティ財団で検討された41項目から15項目の新規図記号を追加したもので、大きな改正となった。オリンピック競技種目ピクトグラムのような華やかさはないものの、オリパラ開催時に情報のインフラを支えるとともに、2020年以降も役立つことを目途として作成された。また、この時、JIS Z 8210とは異なる形でISO図記号となった温泉図記号も検討され、理解度試験の結果を踏まえて、国内用には従来の図記号を、国際的に対応する場合はISOイメージの図記号を使用することができる、JISでは珍しく併記の形をとることになった。そして2020年の追補3は、2020東京オリパラに間に合うよう、トイレ、授乳室関連と、カームダウン・クールダウン図記号を追加したもので、これらの図記号は新国立競技場でも採用されている。

2. ジェンダーに関係した図記号の変化

2002年に発行されたJIS Z 8210には、ベビーカーをエスカレーターに乗せることなどを禁止する「ベビーカー使用禁止」が掲載されている。それから11年後の2013年、国土交通省では、ベビーカーが利用しやすい環境を促進させるために協議会を設置し、設備の充実とともに、ベビーカー使用者が安心して利用できる場所や設備を明示する図記号を作ることになった。その際、すでにある「ベビーカー使用禁止」図記号から禁止を示す赤円と斜線を削除するだけでもよかったのだが、問題になったのが、ベビーカーを押しているスカート姿の女性で、「このままではベビーカーを押すのは女性というイメージを固定してしまうのでは？」という意見が出て、最終的に中性の人がベビーカーを押している姿に変更された。その後、2020年に授乳室の図記号を再検討する際も、男性も利用できる授乳室が増えてきていることから、「授乳室(女性用)」「授乳室(男女共用)」の2通りの図記号を作って、男女ともに安心して使えるようにした。

そして、同じく2020年、共生社会という広い視点で図記号を見直したとき、トイレの男女区分に様々な問題があることがわかってきた。一つはトランスジェンダーの人が性を意識しないで利用できる設備がなかったこと、もう一つは夫婦間あるいは親子間をはじめとして介助が必要な場合の異性介助が気がねなくできるトイレがなかったことだ。もちろん、いままでの「多機能トイレ」は解決手段の一つではあるが、誰でも利用できる一方で、障害のある人から「使いたいときに使えない」という指摘が多く寄せられていた。そこで生まれたのが男女共用トイレの発想だ。設備的には介助のために二人入ることができる少し広めが理想的で、男女共用トイレを表示する図記号に色彩を使うことは特定の性をイメージさせるので望ましくない。また、性別に関わらず利用できる、図記号の男女間の仕切り線は不要だ。このようなアイデアでできた「男女共用お手洗」図記号は、今までと見た目はほとんど変わらないが、色彩による精神的なバリアを取り除き、性を意識しないで利用できる、まさに共生社会にふさわしい図記号となった。

トイレ意見とりまとめ

【ピクトサイン】

◆ 共用トイレ

- ・共用トイレブースには男女共用マークが必要
- ・共用トイレのピクトは白黒がいい → 1～8ブースには男女共用マークを白黒で設置
- ・ブース7、8は並び列の先頭から遠いので、ピクトサインを大きくしてはどうか。壁の角度を変えるのもあり。扉面に大きくつけるのもよい。
→ サイズを大きくするのは対応可能（大きさ検証要）
→ 壁の角度の変更は困難、扉にはストッパー機能があるため開きっぱなしになる場合に扉表示だと見えない
- ・手摺ピクト
 - ・漢字はわかりにくい、（右）の()は文字が小さくなるので不要
 - ・例えば、手すりとわかる図形、右・左で色を変えるなどの工夫が必要 →
- ・介助マーク 見ただ目で障がいかわからない人も使うと示してほしい（介助が必要な人が見ただ目でわかるとは限らない） → 介助マークやめてはどうか
- ・高さ150cmは扉前に人が並ぶと見えなくなるので、並び列の先頭に足跡マークだけでなく、停止線もあったほうがよい → 停止線もつける？
- ・誘導できる人がいれば良いのでは → 常に誘導する人を配置するのは困難、みんなトイレを万博後も広めるには誘導する人が必要ない方がいい

◆ 女性・男性専用トイレ

- ・ピクトサインを壁突き出しにしているのはよい
- ・弱視の人は壁突き出しのピクトだけでは判別できない。入口近くの見えやすい位置（高さ150cmくらい）にもピクトサインまたは色で男性・女性専用と分かる表示が必要（地下鉄のトイレ入口のピクトはわかりやすい）
- ・ピクトの色は黒がいい
※その後、視覚障がい者（弱視）の意見を聞いて、女性は赤、男性は黒（女性が赤だから男性を青とするのは違う）に意見変更
- ・視覚障がい者（弱視）は男性専用トイレと女性専用トイレを色で区別する。入口近くの壁に区別できる工夫が必要（ピクトサインを壁面にも設置し、女性のみ赤色とするか、壁の一部を女性は赤、男性は黒とするなど） → 壁面に男性・女性トイレを区別できるピクトまたは色を表示、女性は赤
- ・男性用トイレのピクトでは小便器しかないことがわからない。情報を伝える必要がある。
（例）「小便小僧+小便器」のピクトを使用しているトイレがあるので、ピクトを作ってはどうか
→ 小便器の形をピクトで表したらわかる？小便器そのものが無い国もある？ことばによる表示が必要かも
- ・男女を間違わないように強調する方がいい。ピクトを大きく表示するなど

◆ ファミリーコーナー

- ・キッズトイレのマークも男女の性しか表現できていないので、男女マークではない方がいい
→ JISマーク、このマークが決まった経過を踏まえるとこのマークでいいと思う。
- ・調乳器のサインもわかりやすく。哺乳瓶マークのようなものが多い → ピクトサインで示すのは困難かも。ことばで表現するのがいいか。

◆ 並び列 足跡マーク

- ・わかりやすく伝えることが大切（並ぶ位置ということをも？）
- ・共用トイレブースのピクト高さ150cmは扉の前に人が並ぶと見えないので、並び列の先頭に足跡マークだけでなく、停止線もあったほうがよい（扉前に並んでしまわないような工夫が必要） → 停止線もつける？

◆ 共通

- ・誰もが入りやすく、気をつかわないサイン
- ・ピクトサインにも点字を表示 → 点字も表示する
- ・補助犬も入りやすいように → 運用確認（パビリオン内は補助犬OK?）

トイレ意見とりまとめ

【コンセプトボード】

◆ 内容・表現

- ・伝えたいメッセージをわかりやすく。コンセプトボードに記載する内容に近いと思ったのが説明資料P14のコンセプト3ポツ目「いろんな人がいるんなトイレを使うことを知ってもらえれば、列に並んでいても自然と譲り合いの気持ちが生まれるのでは」の記載。いろんな人の中に、多様な表現（SOGIESC）の人がいることを理解するものになればいいと思う。
- ・どういう人がどういうことに困っているのかを具体的に表現することが大切
- ・弱視の人、外見から困っていることがわかりにくい人に対しても譲り合いの精神が生まれるようなメッセージになるといい
- ・空いているトイレを探すことができない人もいることを知ってもらいたい
- ・子供にもわかる表現
- ・細かい文字はわかりにくいし読まない。キャッチーな言葉を大きく表示
- ・譲り合いを自然とできるようなキャッチフレーズが必要、「譲り合しましょう」の言葉よりもっと印象的な言葉で伝える
- ・なぜ機能分散しているか示す

◆ QRコード・事前情報

- ・多言語対応も必要
- ・多言語情報は言語によってQRが分かれている方が情報が得やすい
- ・手話動画も流れるといい（聴覚障がい）
- ・視覚障がい者でもQRコードの位置がわかる工夫が必要
- ・QRコードのリンク先は大阪パビリオンのトップページではなく、直接トイレのページに。
- ・QRコードから情報を得られるのであれば、コンセプトボードの前に立ち止まらなくても移動しながら確認できる（聴覚障がい）
- ・動画のナレーションもあった方がいい
- ・キッズトイレ、その他のトイレを事前に写真でわかるように
- ・コンセプトの内容も事前情報として示してほしい

◆ コンセプトボードの位置

- ・位置はもう少し中に入った場所の方がよいが許容範囲内。

【サイネージ】

- ・視覚障がい者（弱視）は空いているところが光る方がわかりやすい
→弱視の人の意見を優先すべきと考える

【触知図】

- ・触知図 コントラストをつけてわかりやすい色で表現してほしい（視覚障がい）
- ・音声の流し方は？（常時なのか、センサー感知なのか等）
→繰り返し音声またはセンサー+押しボタン
- ・点字表記

【通路】

- ・7・8ブース前通路の広さは1800あれば車いすの出入り+すれ違い可能
→施工上の納まりにより1750程度になってしまう
- ・8ブース前のベンチは必要ない。人の滞留につながる
- ・ベンチは外にある方がいい
→使いたい人がいる可能性があるのであれば設計通り設置してはどうか

【1～4ブース】

- ・扉が折れ戸であれば車いすやベビーカーも使える
- ・視覚障がい者は1枚扉で内開きの方がわかりやすい
→視覚障がいの方の使いやすさを優先し片開とする

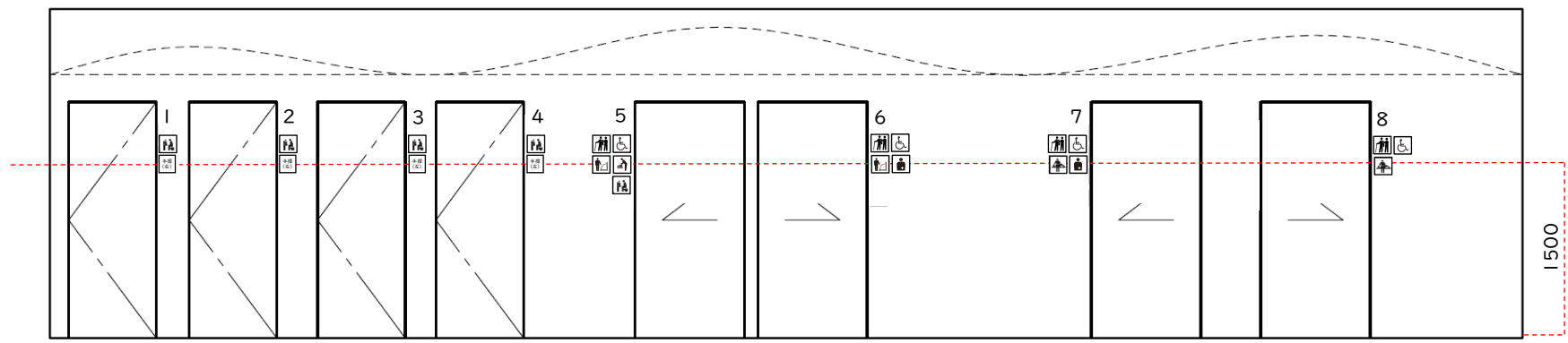
【ブース内設備】

- ・トイレットペーパーや流すボタンの位置がどこになるのか検証してほしい。
→UDガイドライン、JIS基準にあっているか再点検
- ・それぞれの位置ごとに点字が必要
→押しボタンや操作パネルには点字あり
位置を示す点字とは？

みんなトイレ ピクトサインの設置位置 (トイレブース1~8)

各ブースの扉横にピクトサインを表示します

- ブース番号を扉横に表示
- ピクトのサイズは全て150mm角、設置高さは床から1500mmを基本
 - ・ 博覧会協会「サイン整備指針」のピクトサインを使用
 - ・ 共用トイレマーク (男女マーク) を表示 (※1~8全て異性同伴の介助を可能としているため介助マークは設置しない。)



設置するピクト (予定)

車いす トイレ	オストメイト	介助用 ベッド	着替え台	おむつ 交換台	ベビーチェア	★手摺位置	授乳室 (女性用)	こども トイレ	男性用 トイレ	女性用 トイレ	★介助

★JIS規格外

みんなトイレ わかりやすい案内 (イメージ)

トイレサイン、コンセプトボード、触知図のイメージ

- ・トイレサインは名称とピクトを表示
- ・コンセプトボードはUD推進チームの取り組みなどを記載
- ・触地図は平面図と凡例、点字を表示し、音声でも案内
- ・日英表記

確認事項

- ① トイレサインのピクトの種類
- ② コンセプトボードの記載情報

男女共用トイレ
(JIS規格)

トイレサイン

みんなトイレ
Inclusive toilet



男女共用トイレ
・誰れでも使用できます。
・介助者同伴で使用できます。









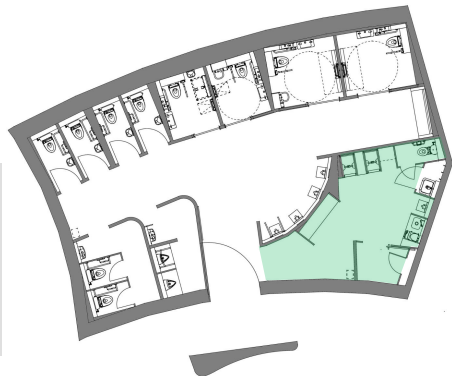


ファミリーコーナー

コンセプトボード 1500mm×900mm程度

みんなトイレのコンセプト

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○



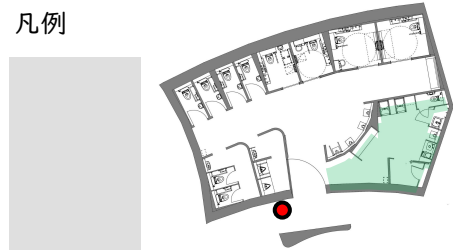
QR
コード

- 表示内容**
- ・コンセプト
 - ・平面図 (各トイレの機能も表示)
 - ・作りて企業名
 - ・QRコード
- ➡ ホームページにも、コンセプトが分かる動画・音声情報、トイレのことばの地図などを掲載することを検討

触知図 W500mm×H400mm程度

みんなトイレ案内図

凡例



- 表示内容**
- ・現在地
 - ・図面 (触知図形、点字)
 - ・凡例 (触知記号、点字)
- 音声情報**
- ・現在地
 - ・トイレのレイアウト (共用トイレ、ファミリールームなどの位置)
- ※ 音声をどのように流すことができるのかは確認中

大阪ヘルスケアパビリオン

UD推進チーム ワークショップ
(第9回)
意見まとめ(展示)

UDWS モックアップ検証での主なご意見と今後の方針

意見項目	主なご意見	UD化への検討・反映事項等	
展示概要	パレードには障がい者、子どもから高齢者、いろんな国の方を表現	検討：映像制作過程で検討	
	事前学習できる、動画、しおりなどがあればよい	検討：センサリーマップの作成	
PHR ポッド	造作	ポッドの大きさ、出入りのしやすさなど車いす利用者対応	対応：大きいタイプのポッドを用意
		モニター、リーダーの設置位置や高さ	対応：リーダーの位置は反転型あり
		介助者、家族と入る場合の対応。待てるスペース	対応：体験内容によって一緒に入れる
		同伴者がいない視覚障がい者や困った時のサポート	対応：アテンド等によるサポート
	モニター	操作ガイドの音声案内では操作は難しい	対応：アテンド等によるサポート
		触ってわかる。物理ボタンなどがあればよい	対応：アテンド等によるサポート
		画面表示。白は眩しい。白黒反転。文字の大きさ	検討：文字の大きさなどでわかりやすくする
		測定できない項目への配慮（脳認知）	検討：システム上の対応可否を検討
リフトライド	音声ガイド。映像内容が伝わる音声や副音声	検討：音声ガイドアプリ	
	車いすや子どもなどの優先案内、優先エリア	検討：優先エリアがわかるような仕掛けやアテンドによる案内	
	ナレーションの手話通訳、映像、字幕の位置	検討：映像、字幕の位置を調整	
	光・音が強い場合の配慮	検討：センサリーマップによる事前情報	
ブースサイン	情報保証。音声ガイド、点字、手話通訳	検討：音声ガイドアプリ、人的支援、事前情報提供	
	読みやすさ。やさしい日本語、るび	対応：るび入れにより読みやすくする	
	見やすさ。文字の大きさ、色、位置	検討：文字に輪郭を付ける等を検討	
	説明文はみんなが理解しやすいように	検討：サイン制作過程で検討	

PHRポッド

出入り・広さ

- ・出入口が狭い。何度も切り返しが必要
- ・まっすぐ入ってまっすぐ出る
- ・電動車いす 足元のクリアランスが必要
- ・車いす 回転が難しい
- ・大型電動車いす+後ろに荷物。広さが必要
- ・入口の正面にモニター
- ・段差ないか
- ・出入口の正面に鏡があると出やすい

造作

操作、モニターの位置・高さ

- ・入口の正面に操作盤やモニター
- ・モニターが近すぎる
- ・モニターをもう少し下に
- ・大型車いすだと操作パネルが低い

リーダーの位置・高さ

- ・手が届きにくい
- ・手前がよい
- ・右側のみ。左側も必要
- ・リストバンドの代わりに首に掛ける形状のもの

同伴者と入室

- ・待てる場所、足跡マーク
- ・介助者と一緒に入れるように

カーテン

- ・開閉がしやすいように
- ・手が届かない

運営

- ・困った時のサポート
- ・アテンド対応
- ・視覚障がい者同士の場合の対応

操作パネル

- ・音声で操作手順の案内
- ・カメラやセンサーの位置が触ってわかるように
- ・画面上を触ってわかる工夫を
- ・液晶画面は操作できない。テンキーなど物理ボタン
- ・タッチパネル以外の操作方法。受話器+テンキーなど

画面表示 (サイズ・色)

- ・文字を大きく
- ・文字のコントラスト
- ・モニターの色 白はまぶしい
- ・黒地に白字
- ・白黒反転、文字拡大 選択できるように

モニター

音声・字幕

- ・字幕
- ・音声案内、副音声、
- ・音声案内 操作ガイド+モニターの映像の説明
- ・自身の情報 音声で読み上げ 個人情報には防声対応
- ・座ったままでできる事が分かる表現を
- ・映像には解説放送
- ・個人ごとに映像が異なる部分で音声ガイドが難しければAI導入またはスタッフの同伴など

測定

- ・測定できない項目 配慮がほしい
- ・視線の動き以外の方法はないのか
- ・視覚障がい者モード 音を聞いて判断するなど
- ・測定できない項目 事前登録で強みを登録できるように
- ・体験内で車いすで体重が測れるように

カメラ

- ・カメラの位置がわかるように
- ・カメラの角度を変えられるように
- ・顔の位置はどの範囲まで
- ・介助者同伴 一緒に写ってもよいのか
- ・介助者同伴 体験者の区別が出来るのか

リフトライド

乗り方・運営

- ・車いすの優先案内
- ・車いすや子どもの優先エリア
- ・車いす、バギー、子どもの優先入場
- ・ゼブラゾーンの表示
- ・並び列、入人数のコントロール

音声対応

- ・音声ガイド (映像説明、解説放送、副音声)
- ・ナレーションの手話通訳
- ・流れる映像とナレーションを一致させる

映像

- ・背の高い人は上の方しか見えない
- ・もう少し高い方がよい

多言語対応

- ・多言語対応。最低4か国語

ブースサイン

読みやすさ

- ・やさしい日本語
- ・ルビ
- ・漢字は子どもが読まない

情報保障

- ・音声ガイド
- ・点字表示
- ・視覚障がい者は介助者同伴とは限らない
- ・QRコードからWEBページ、音声読み上げ、手話通訳などに誘導
- ・アテンド対応
- ・QRコードからナビレンズ

文字

- ・文字を大きくする
- ・フォントを変える
- ・光によって見にくい
- ・フォントが見にくい
- ・青や緑の色が見にくい

位置・デザイン

- ・前に人が立つと見えない
- ・説明の位置が低い。1.2~1.3mくらい
- ・ロゴの位置と説明の位置を上下逆が良い
- ・透過性のない材料が良い

説明文

- ・見たいと思える仕掛けが足りない
- ・表示内容は受け入れやすく
- ・端的で短いフレーズと詳細内容の2段階

展示概要

考え方

- ・どんな障がいの方も同じ体験ができるということがベース (LGBTQ)
- ・障害者差別解消法の合理的配慮、心のバリアフリーの情報保証。同伴者に委ねるのはありえない。(発達)
- ・全体を通して楽しいと思える部分がない(視覚)
- ・アイマスクをして入口に立つところから一連の流れを想像して、見えない人の情報保証について考えてほしい(視覚)
- ・同伴者に対応を委ねても、パビリオン側が何を意図して何を伝えようとしているのか同伴者はわかっていないので、説明するのは難しく、同伴者も楽しめない(視覚)
- ・大阪パビリオンは日本を代表するパビリオンとみんなが思っているので、誰もが公平な情報保証を受けられるように整備すべき(視覚)
- ・副音声については専用機器の貸し出し、スマホで副音声が見れるアプリ(HELLO MOVIE/UDCast)の導入など(視覚)
- ・今後改良される時に手動車いす(公共施設で借りれると思う)やベビーカーで今回のチェックポイントを体験されると良いと思う。作り手が実感されると理解が深まると思う。(子育て)

インクルーシブ

- ・パレードに障がい者がいない。健常者も障がい者も出てくるものに。インクルーシブな未来を感じられる動画にしてほしい。(車いす)
- ・車いすなど他の人も入れてほしい
- ・アバターにツールも出ると〇。パレードに車いすや白杖の人が出ていないので、インクルーシブな姿ではない(聴覚)
- ・パレードには子どもから高齢者まで、障がいのある人ない人、肌や髪の色などの違う人など世界は一つの表現になっていると良い(子育て)

事前情報

- ・事前学習できるツール ANA「そらばすブック」など(発達)
- ・情報が多いため事前学習が大事。動画やしおりがプロセスごとに必要(発達)

バンド発行

- ・体験用バンドの発行操作はタッチパネルなのか。音声で操作できるのか(視覚)

視覚障がい者の意見

- ・アバター概要説明 音声はあるのか。デフォルトはOFF、音声のONを選択するボタンがあれば良い(視覚)
- ・25年後に変わっていく自分の経過を見ることができない。計測した答えがわからないストレス。なんのために計測してきたのか。オンライン申し込みしてからのプロセスが意味のないものになってしまう(視覚)
- ・ブリーフィングの大画面のモニターは映像の説明がなければ何が起きているのか、何を意味しているのかさっぱりわからない(視覚)
- ・パレード 説明がなければさっぱりわけがわからない(視覚)
- ・モニター、体験内容、サインに点字が欲しい

PHRポッド（造作）

出入り・広さ

- ・出入口が狭い（車いす）
- ・何度も切り返しが必要（車いす）
- ・まっすぐ入ってまっすぐ出る（石塚先生）
- ・電動車いすだと足元のクリアランスが必要（車いす）
- ・車いすの回転は難しい（車いす）
- ・大型電動車いす+後ろに荷物があるので広さが必要（LGBTQ）
- ・入口の正面にモニターがあれば回転しなくて良い（車いす）
- ・段差はないのか（LGBTQ）
- ・出入口の正面に鏡があると出入りの負担が減る

同伴者と入室

- ・同伴者と2人の場合に待てる場所、足跡マーク（発達）
- ・介助者と一緒に入れるように（視覚・発達）

カーテン

- ・開閉が負担。入ってから閉める時に手が届かない（車いす）
- ・開けやすいようにしてほしい（車いす）

操作、モニター的位置・高さ

- ・入口の正面に操作盤やモニターがあると使いやすい（車いす）
- ・モニターが近すぎる（車いす）
- ・モニターをもう少し下に（車いす）
- ・大型車いすは高さが高い。操作パネルが低く、届かない場合がある（車いす）

リーダーの位置・高さ

- ・手が届きにくいので手前にしてほしい（車いす・LGBTQ）
- ・右側のみ。左手しか使えない場合があるので左側も必要（LGBTQ）
- ・リストバンドのタッチ位置に手が届かない（車いす）
- ・リストバンドの代わりに首に掛ける形状のものなど検討（医的ケア）

運営

- ・ポッド内で困った時にサポートを呼べるようにしてほしい（聴覚）
- ・アテンドはつくのか（発達）
- ・視覚障がい者同士の場合の対応（視覚）

PHR（モニター）

操作パネル

- ・音声での操作手順の案内。（視覚）
- ・カメラやセンサーの位置が触ってわかるように（視覚）
- ・画面上を触ってわかる工夫を（視覚）
- ・PHR取得時はタッチパネルなのか。見えなくても選択できるように（視覚）
- ・操作が液晶画面だけだと操作できない。テンキーなど操作しやすいものがいい。物理ボタン（LGBTQ）
- ・タッチパネル以外の操作方法を検討して。受話器+テンキーなど（視覚）
- ・リセット（戻る）ができるようにしてほしい（車いす）

画面表示（サイズ・色）

- ・文字を大きく（視覚）
- ・文字のコントラスト必要（LGBTQ）
- ・モニターの色は白だとまぶしいので黒地に白字（聴覚）
- ・白は眩しい（精神）
- ・黒地に白文字が良い。選択できるようにしてほしい（視覚）
- ・文字の大きさを変更できるようにしてほしい（車いす）

音声・字幕

- ・字幕はあるのか（聴覚）
- ・音はなるのか（聴覚）
- ・音声案内はどこまで。操作のガイドだけでなく、モニターの映像の説明も必要（視覚）
- ・自身の情報は音声で読み上げてほしい。個人情報や音声案内するのであれば、防声対応についても検討してほしい
- ・立ってくださいのみの表示はNG。座ったままでできる事が分かる表現を（車いす）
- ・副音声（視覚）
- ・映像には解説放送、個人ごとに映像が異なる部分で音声ガイドが難しければAI導入またはスタッフの同伴など（視覚）

カメラ

- ・カメラの位置がわかるように。カメラの角度を変えられるように（車いす、医的ケア）
- ・スキャンする顔の位置はどの範囲まで可能なのか
- ・介助者と一緒に入った場合、カメラと一緒に写ってもよいのか（視覚、発達）
- ・介助者と一緒に入った時に体験者の区別が出来るのか（子育て・車いす）

測定

- ・目の動きで測定する項目の測定できないので配慮がほしい（視覚）
- ・目が見えないため脳認知スコアが0になるのはさびしい。視線の動き以外の方法は提供されないのか。視覚障がい者モードがあれば良い。音を聞いて判断するなど（視覚）
- ・PHR測定できない項目がある。代わりに事前登録で強みを登録できるようにして（視覚）
- ・体験内で車いすで体重が測れるようにしてほしい（車いす）

ブースサイン

読みやすさ

- ・表示内容は受け入れやすい内容に
- ・やさしい日本語にする。ルビをふるなど必要（車いす）
- ・漢字は子どもが読まない（知的障がい）
- ・端的で短いフレーズと詳細の文章の2段階にする（車いす）

文字

- ・文字が小さい。大きくする、フォントを変えるなど（医的ケア）
- ・光（照明の当たり方）によって文字が見えにくい（車いす）
- ・フォントが見にくい（聴覚）
- ・文字の青や緑の色が見にくい（子育て）
- ・文字を大きくする（車いす・視覚）

情報保証

- ・音声ガイドや点字表示など視覚障がい者への配慮が必要（車いす）
- ・視覚障がい者が情報を得られない。何らかの方法で情報を得られるようにしてほしい
介助者同伴とは限らない。（視覚）
- ・QRコードからWEBページ、音声読み上げ、手話通訳などに誘導（視覚、聴覚）
- ・アテンド対応（聴覚障がい）
- ・音声情報が必要（車いす・視覚）
- ・QRコードからナビレンズ（聴覚）

位置・デザイン

- ・前に人が立つと見えない（LGBTQ、車いす、知的）
- ・展示内容の説明の位置が低い。1.2～1.3mくらいの高さ（車いす・知的）
- ・ロゴの位置と説明の位置を上下逆の方が良い（説明を真ん中）
- ・みどりと空色は弱視の人には見えない（視覚）
- ・サインを見たいと思わない。見たいと思える仕掛けが足りない（発達）
- ・鉄組みが良いが透過性のない材料が良い（LGBTQ）

リフトライド

乗り方・運営

- ・車いすの優先案内
- ・車いすや子ども優先エリア（車いす）
- ・車いす、バギー、子どもなどの優先入場（車いす）
- ・ゼブラゾーンの表示（医的ケア）
- ・並び列のコントロール（車いす）
- ・入人数の管理

音・光

- ・映像の明度・彩度によって見るできない方もいる
（体調に異変が出るなど）（車いす、精神）
- ・音の大きさや光の強さ 要検討（視覚）

多言語対応

- ・多言語対応。最低4か国語（聴覚）

音声対応

- ・流れる映像にナレーションがほしい
- ・音声ガイド（映像説明）がほしい（視覚）
- ・動画を説明する解説放送（視覚）
- ・ナレーションの手話通訳はあるのか（聴覚）
- ・映像とナレーションは一致させてほしい。次の展示ゾーンの説明だと視覚障がい者はライドに乗っていても同じ体験ができない（みなさん）
- ・副音声（みなさん）
- ・映像に対する解説放送。映像に合わせた説明（車いす）
- ・インフォメーションは必要な情報に含まれないのか（聴覚障がい）
- ・字幕 同伴者が読んだとしても映像の説明ではない。ただのエレベーターになってしまう
（視覚）

映像、字幕の位置

- ・字幕は下の方だと見えない。上部がいい（聴覚）
- ・字幕は高い位置に表示してほしい（車いす）
- ・映像 背の高い人は上の方しか見えない
- ・映像 もう少し高い方が良い（子育て）
- ・字幕 上にあると見えやすいかもしれないがサイトラインが上になるので調整が必要（聴覚）

1 ページ目

(表紙)

タイトル：大阪ヘルスケアパビリオン UD 推進チームワークショップ

令和6年5月28日13時15分から15時45分

乃村工藝社 会議室 パークスタワー20階

2 ページ目

(本日の流れ)

13:15 ご挨拶

13:20 「みんなトイレのサインと並び方」～2月29日ワークショップを踏まえて～
説明15分・各班ディスカッション15分

13:50 「REBORN 体験ルート」の展示体験の概要 説明15分

14:05 原寸大モックアップによる展示体験確認(4班で順番に確認)

① PHR ポッド：モニター

② PHR ポッド：造作

③ リフトライド

④ 協賛企業展示のブースサイン

14:30 各班ディスカッションとまとめ 適宜休憩

15:00 発表 (5分/チーム)

15:30 講評

15:35 今後の予定など

15:45 終了

3 ページ目

タイトルページ：1. みんなトイレのサイン・並び方

サブタイトル：2月29日のワークショップを踏まえて

4 ページ目

(タイトル)

みんなトイレのサイン・並び方検討 ワorkshop概要

(説明文)

日時：令和6年(2024年)2月29日(木)14:00～

場所：大阪府咲洲庁舎 44階会議室

参加メンバー：石塚先生、当事者のみなさん18名

大阪パビリオン関係者 (公社)大阪パビリオン、東畑建築事務所、博覧会協会

作りて企業のみなさま シブタニ TOTO

ワークショップの内容

いろんな機能のトイレがどこにあるか、どこが空いているか、どうすれば利用したいトイレにスムーズ

にたどり着けるか、などを3班に分かれてディスカッションしました。

また、床に実物大のレイアウトを表示して、並び方や通路幅などをみんなで検証しました。

(ワークショップ写真)

左：みんなでディスカッションしている様子

中：実物大の図面で並び方などを確認している様子

右：車いす同士がすれ違えるか確認している様子

5 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ 実物大レイアウトの確認でわかったこと (動線)

(説明文)

並び方や通路・出入口の幅を確認しました。

わかった課題

1. 幅の狭い所がある

- ・ G・H ブース前の通路が狭く、車いす同士のすれ違いが困難
- ・ 男性専用の入口の幅が狭い

2. ファミリーコーナーの入り口が遠い

(図)

右下：みんなトイレの平面図

6 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ 実物大レイアウトの確認でわかったこと対応 (動線)

(説明文)

わかった課題は、次のように対応します。

1. 狭かった通路幅を拡幅

- ・ G・H ブース前の通路は 1550mm→約 1800mm
- ・ 男性専用入口幅は 560mm→約 750mm

2. ファミリーコーナーの入口を変更

- ・ 入口をトイレ出入口近くに変更
- ・ レイアウトを見直し
- ・ トイレを出た所に全身鏡を設置

(図)

右下：変更後のみんなトイレの平面図

7 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ わかりやすい案内・サイン、並び方 (検討)

(説明文)

わかりやすい案内・サインや並び方について話し合いました。

論点

- ・みんなはどのように並ぶ？
- ・使いたいトイレの機能を知るには？
- ・どこのトイレが空いている？

(図)

右下：みんなトイレの平面図

8 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ わかりやすい並び方

(説明文)

自然と並び列ができるよう、ゆるやかに誘導

- ・入口左側にトイレサイン、コンセプトボード、触知図を設置
- ・列の先頭に「ストップマーク (床表示)」を表示、サイネージは列の先頭に設置

(左横)

トイレの使用前に、コンセプトをしっかりとアピール

→自然と譲り合いの気持ちが生まれることを期待

並び列の先頭で、空いたブースが使いたいブースではなかった時は

→後ろの人や困っている人に声かけの輪

(図)

右：みんなトイレの平面図

9 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ わかりやすい案内 (イメージ)

(説明文)

トイレサイン、コンセプトボード、触知図のイメージ

- ・トイレサインは名称とピクトを表示
- ・コンセプトボードはUD 推進チームの取り組みなどを記載
- ・触地図は平面図と凡例、点字を表示し、音声でも案内
- ・日英表記

確認事項

1. トイレサインのピクトの種類
2. コンセプトボードの記載情報

(図)

左：トイレサインのイメージ

(トイレサインの表示内容)

- ・左側：ピクトサイン
- ・右側上：みんなトイレ
- ・右側下：Inclusive toilet

中：コンセプトボード 1500mm×900mm 程度

(コンセプトボードの表示内容)

- ・コンセプト
- ・平面図 (各トイレの機能も表示)
- ・作りて企業名
- ・QR コード

→ホームページにも、コンセプトが分かる動画・音声情報、トイレのことばの地図などを掲載することを検討

右：触知図 300×400 程度

(触知図の表示内容)

- ・現在地
- ・図面 (触知図形、点字)
- ・凡例 (触知記号、点字)

(触知図の音声情報)

- ・現在地
- ・トイレのレイアウト (共用トイレ、ファミリールームなどの位置)

※音声をどのように流すことができるのかは確認中

10 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ 機能がわかるピクトサイン

(説明文)

機能などがわかるピクトサインを設置します。

- ・各ブースの機能、ファミリーコーナーの機能、男性専用トイレ、女性専用トイレのピクトを設置
- ・男性用トイレ、女性用トイレのサインは突き出しサイン (壁に対して直角に設置) とする

(図)

みんなトイレの平面図と各ブースのピクトの位置

11 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ ピクトサインの設置位置 (トイレブース1～8)

(説明文)

各ブースの扉横にピクトサインを表示する

- ・ブース番号を扉横に表示

- ・ピクトのサイズは全て 150mm 角、設置高さは床から 1500mm を基本
- ・博覧会協会「サイン整備指針」のピクトサインを使用
- ・共用トイレマーク（男女マーク）は表示しない

(図)

中段： トイレブース 1～8 の展開図と各ブースに設置するピクトサイン

下段：設置するピクト（予定）

12 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ ピクトサインの設置位置（パース）

(図)

左上：パース（視点 1）（並び列の先頭から左側を見たパース）

右上：パース（視点 2）（並び列の先頭から右側を見たパース）

左下：パース（視点 3）（ブース 7 前の通路からサイネージ方向を見たパース）

13 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ サイネージの表示内容（イメージ）

(説明文)

- ・使用中のみ「赤」で表示
- ・ブース番号を表示
- ・ピクト（各トイレの機能）
- ・ファミリーコーナーのみエリアを色表示

14 ページ目

(タイトル)

参考：みんなトイレ 2 月 29 日 ワークショップ意見

(図)

中央に平面図

(意見)

並び列

- ・列の先頭と 2 番目の人はトイレの中で並び、3 番目からは入口左側に 1 列で並ぶ
- ・動線は一方通行にした方がわかりやすい
- ・入口左側に並び、出口は固定しない方がわかりやすい
- ・混んでいる時には、E～H が空いた時に使っていいか悩む

ピクト

- ・共用トイレマーク（男女マーク）はいらない

- ・男女マークの色分けはいらない
- ・トイレマークは男女マークではなく、便器マークがいい
- ・ピクトの大きさは、種類で変えずに同じ大きさがいい

サイネージ

- ・設置場所は並ぶ時に見える所がいい
- ・トイレの中に入ってから見える位置がいい
(入口手前の壁だとわかりにくい)
- ・空ブースはブース前に行くまでに知りたい (車いすでは通路での方向転換が難しい)
- ・空いたブースを音声で知らせてほしい
- ・空き表示は空いているブースだけ光る方がわかりやすい
- ・ファミリーコーナーのみ色分けする。カラフルだとわかりにくい。

コンセプト

- ・目かくし壁または左側の壁にコンセプトを示す
- ・トイレを使用する前にコンセプトをしっかりアピール
- ・いろいろな人がいろいろなトイレを使うことを知ってもらえれば、列に並んでいても自然と譲り合いの気持ち生まれるのでは
- ・このトイレを使って意識を変えるきっかけになるといい

事前情報など

- ・ことばの地図 (トイレの動線) があるといい
- ・大阪パビリオンのHPに「みんなトイレ」の特集があるといい

通路 (入口入ったところ)

- ・2列で並ぶには狭い
- ・弱視の人への配慮が必要 (外見でどんな困りごとがあるかわかりにくいので声をかけてもらいにくい)

通路 (G・Hトイレ前)

- ・通路幅が狭い、可能であれば1800mm確保を
- ・G・Hトイレ前の通路が混雑しそう

ファミリーコーナー

- ・入口までの動線が長い
- ・キッズトイレまで遠いので、ベンチ裏の壁に開口を設けるなどショートカット動線がほしい
- ・ファミリーコーナーに2か所出入口があるのは不安、原案の方が安心感がある
- ・ファミリーコーナー内にベンチは必要、外のベンチで授乳は不安

男性専用トイレ

- ・入口幅が狭い
- ・目かくし壁があった方がいい

女性専用トイレ

- ・トイレ A からの視線が気になる

その他

- ・このトイレだけを見に来る人がいてもいい
- ・並ぶときに休憩できる場所があるといい

15 ページ目

タイトルページ：2. 「REBORN 体験ルート」の展示体験の概要

16 ページ目

タイトルページ：3. 原寸大モックアップによる展示体験の確認

17 ページ目

(参加メンバー・班分け)

ワークショップ班構成と役割

A 班：6 名

B 班：6 名

C 班：6 名

D 班：5 名

パビリオン関係者とオブザーバーの参加者も記載しています。

18 ページ目

(確認の流れとチェックポイント)

原寸大モックアップにより、広さモニタの高さなどを確認します。左に本会場の図があります。

本日のワークショップは、4つの確認をしていただきます。

①PHR ポッドモニター6分 ②PHR ポッド6分 ③リフトライド6分 ④ブース等サイン6分、

ABCD 班は確認する順番が異なるのでファシリテーターの誘導に従ってください。

A 班：④→③→②→① B 班：③→④→②→① C 班：②→①→③→④ D 班：①→②→③→④

チェックポイントは

①.PHR ポッド：モニタは、見やすさ、読みやすさ ※文字サイズ・色などご確認ください。

②.PHR ポッド：造作は、入退室方法、白杖置き方、ID リーダータッチ場所・高さ、台・モニタの高さ、車いすのバギータイプ

③.リフトライドは、入退室方法、モニタの高さ、ライド内の適正人数、運営方法

④.ブース等サインは、見やすさ・読みやすさです。

19 ページ目

(PHR ポッドのイメージ)

左に①モニタの検証イメージ

右に②PHR ポッドの検証イメージ

20 ページ目

(リフトライドとブースサインのイメージ)

左に③リフトライドの検証イメージ

右に④ブース等サインの検証イメージ

21 ページ目

タイトルページ：ディスカッション・まとめ 発表 (5分)

22 ページ目

タイトルページ：講評

23 ページ目

タイトルページ：今後の予定

24 ページ目

(UD 推進チーム 今後スケジュール)

2024 年から 2025 年のスケジュール表が載っています。

建築、展示、運営、広報と上から順にスケジュールが書かれています。

2024 年 5 月は、トイレのサインや並び方、PHR ポッドとライドの実物大モックアップによる検証。次のスケジュールは 9 月頃に PHR 計測の検証とパビリオンの運営マニュアルや研修計画の検討進捗状況を予定しています。

12 月頃に運営マニュアルや研修計画、事前情報提供の案の確認を予定しています。

2025 年 3 月末頃にリハーサル、2025 年 4 月から 10 月は会期中の検証を予定しています。その後、とりまとめ、振り返り、フィードバックをしていく予定となります。

以上で終わりです。